免許返納リスクの情報提示による意識・行動変容方策の実践研究
―八幡浜市「真穴おでかけ講座」でのケーススタディ―

大野悠貴（モビリティプロモーション／弘前大学）　中尾聡史（京都大学大学院工学研究科）　松良喜郎（八幡浜市総務企画部政策推進課）　松野好眞（八幡浜市総務企画部財政課）
徳田翔士（八幡浜市総務企画部政策推進課）　大上あすみ（八幡浜市総務企画部政策推進課）　西村智明（株式会社バイタルリード広島支店）　岡田あかね（株式会社バイタルリード広島支店）

背景

従来型の免許返納奨励方策

例：広島市ホームページ（https://www.city.hiroshima.lg.jp/soshiki/148/7143.html）

高齢者の事故リスクを強調

インパクトはある

例：（上）JR 九州（https://www.jrkyushu-kippu.jp/fare/ticket/355）
（下）弘南鉄道（https://konantetsudo.jp/2023/05/25/over65-freepass2023a/）

免許返納“後”に
インセンティブ

しかし・・・

既往研究から見えてくる、従来型免許返納奨励方策の課題

⇒**免許返納による“健康リスク”**の増加
①返納による入院、抑うつのリスクの増加
②返納後に要介護認定リスクの増加

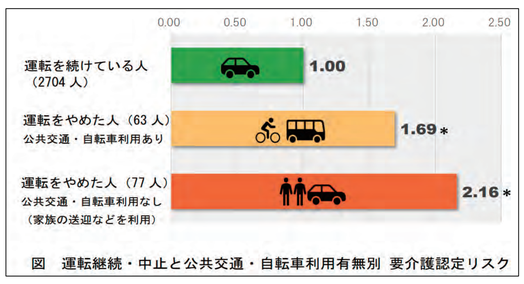

図　運転継続・中止と公共交通・自転車利用有無別　要介護認定リスク

筑波大学報道発表、市川政雄「運転中止で要介護リスクが２倍」より借用

⇒免許返納後、公共交通が利用できる環境にあるにも関わらず**公共交通が利用できず、外出頻度が減少**
運転停止者へのアンケートとインタビューから得られた免許返納意思決定プロセス（榎本ら 2022）

⇒高齢者ほど行動変容しづらく、若い世代から取り組みが重要
健康に配慮した交通行動誘発のための学術的研究（谷口ら 2017）

⇒**返納前**の運転頻度が少ない人ほど返納後に困っていない
居住地特性から見る運転免許返納者の特性把握（橋本ら 2011）

本研究プロジェクトで明らかになった、免許返納リスクの情報提示効果
①免許返納“**前**”からの**公共交通・徒歩利用意図の促進**可能性
②**免許返納不安をより低減**させる効果がある

詳細は、口頭発表２　02-4「免許返納リスクの情報提示による意識変容についての研究」

あえて免許返納リスクを伝え、多様な移動手段を使いこなす重要性に気づいてもらうには、事故リスクのような「今」ではなく、「将来」を予見したうえでの意識・行動変容が必要

実施内容

八幡浜市事業の一環として、「真穴おでかけ講座」を実施

■実施概要
実施日：2024 年２月 18 日（日）午前の部・午後の部で計２回実施（1 回２時間）
場　所：真穴地区公民館
人　数：高齢者を中心に地区住民 29 名（両部合わせて）
内　容：事前アンケートへの記入
挨拶・趣旨説明
基調講演（**免許返納リスクの情報提示**）
感想を語り合う時間
おでかけワークショップ（**行動プラン法に基づく、おでかけプラン作成**）
おでかけプランを共有する時間
事後アンケートへの記入
※2 カ月後に、効果測定アンケートを郵送配布・郵送回収（協力者のみ）

■愛媛県八幡浜市の概要
人　口：30,183 人（うち、真穴地区 1,025 人：2024 年７月現在）
面　積：132.65 ㎢
■真穴地区について
・リアス式海岸沿いに国道 378 号線が通り、海岸沿いに集落が張り付く
・急傾斜地を利用したみかん栽培が盛ん（「真穴みかん」が有名）
・宇和島自動車の路線バスが、朝７時～夜 19 時（秋冬 18 時）までの間、約１～２時間に一本程度、八幡浜市中心部まで運行（駅まで約 30 分）

免許返納リスクの情報提示

・「将来」という時間的な広がりをわかりやすくするために、「としお」さんと「ゆきお」さんのストーリーを用意して提示
・ストーリーの解説編を設け、根拠となるデータも提示

「としお」さん（免許返納「前」）
- 74歳男性
- 買い物、通院、どこに行くのも自分が運転する自動車
- 家族に免許を返納することを勧められるも、

「返納後の暮らしがとても不安で返納なんてできないよ」
と思っている　7

「ゆきお」さん（免許返納「前」）
- 74歳男性
- 自動車も使うけど、街中に行くときは公共交通を使ったり、近所の病院には徒歩や自転車を使うことも
- 免許返納することを考え始めていて

「自動車がなくなるのは不便だけど、まぁ返納してもなんとかなるかなぁ」
と思っている　8

「としお」さんと「ゆきお」さんは
免許更新のタイミングで
免許を返納することに。　9

「としお」さん（免許返納「後」）
- 公共交通使えば何とかなるかと思っていたが、いざ使ってみるとわからないことばかり
- 家族や友人の送迎に頼ろうと思うけど、頼みづらい
- 外出するのが億劫になり、いつのまにか健康を害してしまいました　10

「ゆきお」さん（免許返納「後」）
- 自動車がなくなって不便になったものの、公共交通で買い物に行ったり友達に会いに行ったり
- 家族や友人の送迎に頼れないときは公共交通や徒歩を駆使しながら移動
- 自分の力・意志で何とか外出できています　11

実施結果

当日実施の事前・事後アンケート（27 名回答）
- 10 名が、免許返納に対する不安低減（約３割）
- 6 名が、免許返納に対する態度を軟化（約２割）

２カ月後実施の事後アンケート（15 名回答）
- **6 名が公共交通利用を実践**
- うち５名はこれまで**公共交通を利用していない新規利用者**

現在は運転免許があるので、買い物や病院も（眼科、歯科）に行くのは、いつも車で行っていますが、**せっかく「おでかけ講座」を受けたので試してみなくては**と思って、バスに乗って買い物に行ってみました。やはりバスだと**荷物が多いとバス停迄重い荷物を持って歩くのが大変**、**バスの時間待ちが長いと不便**なので、まだ当分はマイカーで出かけたい・・・。でも**今のうちから免許返納後のことを考えることは、とても大切なことだと思うようになりました**。
※事後アンケート自由記述より抜粋

結論

- 公共交通利用促進の文脈において簡単なストーリーを用いた**免許返納リスクの情報提示は、意識・行動変容に効果がある**

ただし・・・

- おでかけ講座後に**公共交通を利用して免許返納後の暮らしに不安を感じるようになった**参加者も少数確認
- 自由記述なども踏まえれば、**実践面での支援**の必要性が示唆

公共交通に限らない多様な移動手段を考慮した、免許返納リスクの情報提示を軸とした一連の流れのパッケージングに、今後取り組む

本ポスターの内容に関するお問い合わせ：大野悠貴（モビリティプロモーション／弘前大学）／メール ohno@mobilitypromotion.jp